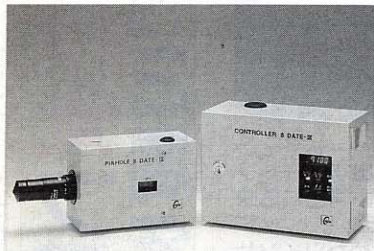


CDコーナーの監視役

— 8ミリ防犯カメラ —

奥田商事

奥田商事(株) (西区横川) 売している金融機関向け
 一—十一—) が製造、販 C D (現金自動支払機)、



金融機関で需要の高い防犯カメラ

ATM(現金自動預払機)コーナー専用の8ミリ防犯カメラは国内生産の大半を占め、注目されている。防犯カメラは従来、三十五ミリフィルムを使用するのが主流だった。同社の奥田耕造代表取締役(四)は、CDの登場を機に、コストの安い8ミリフィルムでも機能的に対応できると考え、一足先に使用を始めたアメリカへ行き、性能や法的问题を調べるなど、研究を進

めた結果、日本初の8ミリによる防犯カメラの商品化に成功。昭和五十四年春、同社を設立した。ところが早くも同年秋、中区銀山町の銀行で、盗んだ通帳から現金を引き出した犯人を同社の8ミリ防犯カメラがバッチリ撮影して初手柄を立て、評価が高まり、金融機関からの引き合いが相次いだ。その後、海外からの問い合わせも増え、ヨーロッパや東南アジアなどへ輸出を始めた。現在、年間売上高十億円を目標に、より鮮明な画像で、各種

ニーズに合わせた防犯カメラの商品化を進めている。奥田さんは「ATM、CDの普及にともない、キャッシュカードによる犯罪が問題化し、防犯カメラの重要性が高まっています。防犯カメラは犯罪防止のために秘密の部分が多く、詳しくは説明できませんが、電子光学や写真技術の集大成の商品です。今後、研究開発に取り組み、あらゆる場所でも有効的に利用できるカメラを作っていきたい」と抱負を語っている。